

村、

〔備前國津高郡菟垣村當地畠賣買券〕菟垣村□□漢部阿古麻呂解申依正稅不成當地賣買畠□
略○中

寶龜五年十一月廿三日○署

名略

〔古文書類纂和興認可狀〕備前國金岡東庄内地頭庶子道性分領田地地頭分文事
合領家方鹽屋里二坪壹段下國重作竹星里十七坪拾伍代下國重作金岡里
廿五坪壹段不清二作略○中

一地頭方海面里卅坪壹段參拾伍代圓性作金岡里廿五坪參段不藤三郎略○中

右領家地頭分文如件

元亨參年五月七日

地頭代紀政綱花押

預所藤原義幸花押

〔備前國誌〕岡山府

東西凡二十餘町南北凡一里餘諸士の第宅商買の肆店有り西大川をまたがりて西は御野郡に屬す東は上道郡に屬す西國往來の巷にして通船の運送あり繁榮の地なり

〔櫻雲記〕正平八年和二年正月十日備前國岡山ニ於テ南朝ノ兵上神太郎兵衛尉高直戰死ス、
〔戸川記〕一右の後は毛利より備中境目を侵し備前の内一宮のまへ辛川表迄も責入に付直家兵を出し戰て是を追退く常山城に籠る組頭中島左馬進廣戸某杯より岡山へ注進して加勢を乞直家聞之驚略○中先秀安が一左右を待て出勢可然と猶豫する所に翌旦秀安が注進狀到来急ぎ披き見れば決して御出勢不可有是は敵の手だてにて岡山より當城への加兵を出させ其上にて兒島と岡山の舟手を取り切岡山の無勢成虛を見て本城岡山を攻る術と存候略○下